

第82回 全国産業安全衛生大会開催!



～名古屋での開催に沖縄県からもツアーで参加～



第 82 回全国産業安全衛生大会が、9 月 27 日(水)から 29 日(金)の期間、**名古屋**において「名古屋の地で 掲げよう 安全・健康の旗印」を大会テーマに開催され、全国から約 11,500 人が参加しました。沖縄県労働基準協会では、J T B 沖縄の協力でツアーを企画し、51 名の会員事業場の方が参加しました。

初日の総合集会(会場：ポートメッセなごや)では、開会式の後安全衛生活功者の表彰も行われ、沖縄県からは古波津昇沖縄県労働基準協会前会長(拓南製鉄株式会社・拓南本社株式会社 代表取締役会長)が「**緑十字賞**」を受賞されました。その後、大会宣言が採択され、労働災害のない、安心して働ける職場



総合集会

環境を実現することは、全ての働く人、全ての国民の願いである。名古屋の地で開催される本大会において、労働災害による犠牲者をこれ以上出さないという決意を新たに、関係者が一丸となって取り組むことを誓いました。

特別講演では、スポーツ庁長官の室伏広治氏が「スポーツで未来を創る～ライフパフォーマンスの向上のためにスポーツが果たす役割～」と題して、東京オリ・パラ競技大会は、「楽しさ」や「喜び」などスポーツのもつ様々な価値を改めて確認できた大会となったが、今後、このスポーツ・レガシーをいかに継承・発展させていくかについてのお話がありました。また、室伏スポーツ庁長官が提唱する紙風船を潰さないように力を入れる等のエクササイズも参加者全員で行いました。



緑十字賞受賞の
古波津前会長

大会 2 日目と 3 日目は、**分科会**となり、各分科会「マネジメントシステム・リスクアセスメント」、「安全管理活動」、「機械・設備等の安全」、「DX 等」、「労働劇」、「安全衛生教育」、「ゼロ災運動」、「労働衛生管理活動」、「化学物質管理活動」及び「メンタルヘルス・健康づくり・健康経営」において、全国の事業場からの研究発表をはじめ、最新の安全衛生の課題に対応した講演、パネルディスカッション等が開催され、大会参加者は自社の安全衛生活動の参考となる分科会に参加していました。

また、「**緑十字展 2023 ～働く人の安心づくりフェア～**」も同時開催され、210 社・団体が出展する安全衛生保護具・機器等の総合展示会となっており、参加者は最新の安全衛生保護具・機器等を見て説明を受けていました。

当協会企画のツアーは、総合集会に参加するため前泊となり、**ツアー初日**は中部国際空港セントレアに到着後、「**ダイドーロボット館**」で産業用ロボット実験施設を視察し、その後



徳川美術館観覧

「**徳川美術館**」を閉館時間後の貸切ガイド付ツアーで国宝や重要文化財等の美術品を観覧しました。夜は、**懇親会**を開催し、会員間の交流や親睦を深めました。**ツアー 2 日目**は、トヨタグループの発祥である豊田紡績株式会社本社工場であった歴史的にも貴重な産業遺産である赤レンガ建物の



産業用ロボット実験施設視察



懇親会



トヨタ産業技術記念館見学

「**トヨタ産業技術記念館**」を見学しました。近代日本の発展を支えた基幹産業のひとつである繊維機械と現代を開拓し続ける自動車の技術の変遷が紹介されており、「研究と創造の精神」と「モノづくり」の大切さを本物の機械の動態展示と多彩な実演を通じて感じてきました。昼食に名古屋名物のひつまぶしを味わった後、総合集会に参加しました。夕食は、オプションツアーとして